IR 3

**想像される秩序**：文明、交易、帝国、中央と周辺

都市の間の交易

交易の安定的な実現が「安全保障」

アジアの循環交通路

1. 草原の道（冬季、そり）
2. シルクロード
3. 海の道

2000年くらい前にはユーラシア大陸のネットワークは完成し、あとの問題は誰がそれを支配するのか？が論点に

帝国制度：中心と周辺を明確に規定

イスラムと中国が中心で、欧州は周辺だった

ウェストファリア体制

* 主権は領主に
* ミュンスター条約　＝　免責を規定。戦争を忘れよう！
* 戦争忘却が昔のノルマ

→ このころの戦争は傭兵により戦われる

BUT アメリカ独立戦争で国民が戦う戦争が始まる

国民vs国民の構造変化、戦争は忘却するものではなく覚えるものとなっていった

ヴェルサイユ条約、　賠償金。

モンゴル帝国により、外には何かいいものがある！と言った意識

正戦論、無差別戦争観、戦争違法化

* 文明としての国際社会は戦争と平和を区別する
* ルールのない戦争は宗教戦争たる30年戦争でなくなっていく  
  グロチウスが体系化したのが文明に共有された自然法に基づく戦争観＝国際法
* 「正しい」戦争
* （欧州的）差別戦争観→ 無差別戦争観（交戦権）→ （普遍的）差別戦争観
* 不戦条約（1928）
* 初期の欧州国際関係：王と王の関係
* ウェストファリア体制に移行してから、国家間関係は君主と君主の付き合い

古典外交

* ウィーン体制
  + 宮廷外交
  + 秘密外交
  + 勢力均衡　（フレキシブルな同盟関係。同盟の二極化による戦争説明はこの勢力均衡が崩れたことに焦点をおく）。
  + 重商主義  
    → いわゆる旧外交

イギリスの台頭、帝国化と「長い18世紀」

* 議会政治の優勢。大衆民主主義以前の名望家政治、重商主義を根本とした経済政策と植民地政策が特徴。
* 第一回選挙法で終わった　グラッドストンの自由主義化→穀物法撤廃、航海法撤廃。
* 保護貿易→自由貿易
* 公共財：海底ケーブル網等　　パックス＝ブリタニカ
* 奴隷貿易とその禁止
* →Slave Trade Act 1807 (history of Nigeria)
* 第一次大戦での旧外交→ パレスチナ問題

アメリカ、第一次世界大戦

* 国民国家の発明
* 総力戦をもたらす

WW1

* 同盟の二極化
* 総力戦
  + 国民がいる
  + 教育により国民意識により培われる
  + 総動員されるので、戦争は極めて技術革新を加速させる。

国連憲章の規定する戦争

* 原則戦争は違法（1000人以上死なないと戦争とは言わない）
* 51条　自衛のための戦争はオーケー　BUT 通報義務　（安全保障理事会に通報しなくてはならない）
* ７章の42条も抜け道
* 「国際法」は想像の産物としての分野

Wilson stole the 14 principles for peace from Lenin

集団安全保障と集団的自衛

* Collective Security
  + The maintenance of peace and security in an international organization. Policing based on agreed terms.
  + League of Nations
  + 国際秩序に反する違法行為をした国を強制措置で罰すること。警察的な措置。
  + 国連憲章の第７章（A42）
* Collective Defense
  + Cooperative defense where a number of countries team up and assist each other in the case of an international conflict.
  + 防衛の協力、日本が攻められたらアメリカが防衛を支援する。

太平洋戦争はなぜ起こったのか？

* ジョセフ・ナイの説明―日本がABCD包囲網など、帝国主義列強により包囲されて輸入を途絶され、経済的に困窮したことが原因だったという。軍部はこのような経済への打撃を乗り越え、資源を確保するためにも諸外国への帝国主義的侵略をすすめ、国民も支持した。
* 暴走する日本軍兵士― 明治維新は侍の武装解除に失敗し、武士のような考え方（the emperor’s orders are absolute） を廃絶することができず、Civic control を徹底させることができなかった。
* 日本の情報だけで戦争を語ることは国際関係論の立場からナンセンス。
* 他者が何をどのように説明しているかを理解するのがかぎ。
* また、自分たちの歴史理解を他者にも説明する努力を惜しんではいけない。

冷戦下

* 集団的安全保障は機能してない（ソ連の拒否権による強制措置の敢行不可能）
* 集団的自衛による秩序
  + 二項対立
  + 核抑止
    - アメリカ、ソ連、イギリス、中国、イスラエル、インド、パキスタン、（南アフリカも持っていたが黒人政権へ転換の時に捨てた）、イラン、北朝鮮。
  + 核抑止の説明をゲーム理論でしなさい。
    - 囚人のジレンマゲーム
      * 一回きりのナッシュ均衡
      * 繰り返し、将来の影が小さい（割引因子βが小さい）
  + Mutual Assured Destruction
  + 核をめぐる国際協力：不拡散レジーム
  + 核をめぐる国際協力：非核地帯

1945年以降の国際関係

* 戦争を国際法で違法化：無力さの実感
  + 五大国による紛争処理、制裁メカニズムの整備へ　連合国
  + しかし、集団安全保障は機能不全に

ナイ・ウェルチは大丈夫か？

* 同盟の二極化と二極化は、同じではないのか？
* DAVID　SINGER の　第一法則  
  理論とは何か
  + 同じ枠組みから枝分かれして、結果を全て説明できると良い。
* ナイとウェルチは説明に失敗している。